

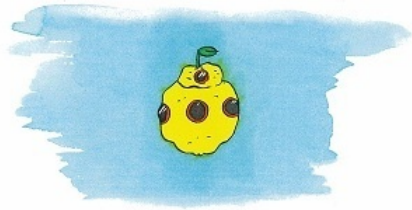


うっそー

さく ジャイアントあきの

うーそー

作 シャアト あき



まよなかの うみのうえ

かみなりが おちました

びしゃ



かみなりと いっしょに
マンボウも おちました。

マンボウは
とても おなかを すかせています。

ふわふわと うみのうえを ただよっていると、
むこうから ガチョウが やってくるのを
みつけました。



「おーい ガチョウさん」

マンボウは ガチョウに むかって よびかけました。

「なにかしら」

「ぼく はらぺこで しょうがないんです。

なにか たべるもの もっていたら ぼくに くださいな。」

と、マンボウが おねがいすると

「いいわよ これ あげるわ」

といって、

ガチョウは のっていた ちくわぶを

マンボウに わたしました。





「ありがとう ガチョウさん」

まんぼうは、あっというまに ちくわぶを たいらげてしまいました。

「ガチョウさん きみは これから どこへ ゆくの」

マンボウが たずねると

「わたしはね せかいいち おおきな おでんを つくるの。

だから、これから せかいいち おおきな はんぺんを

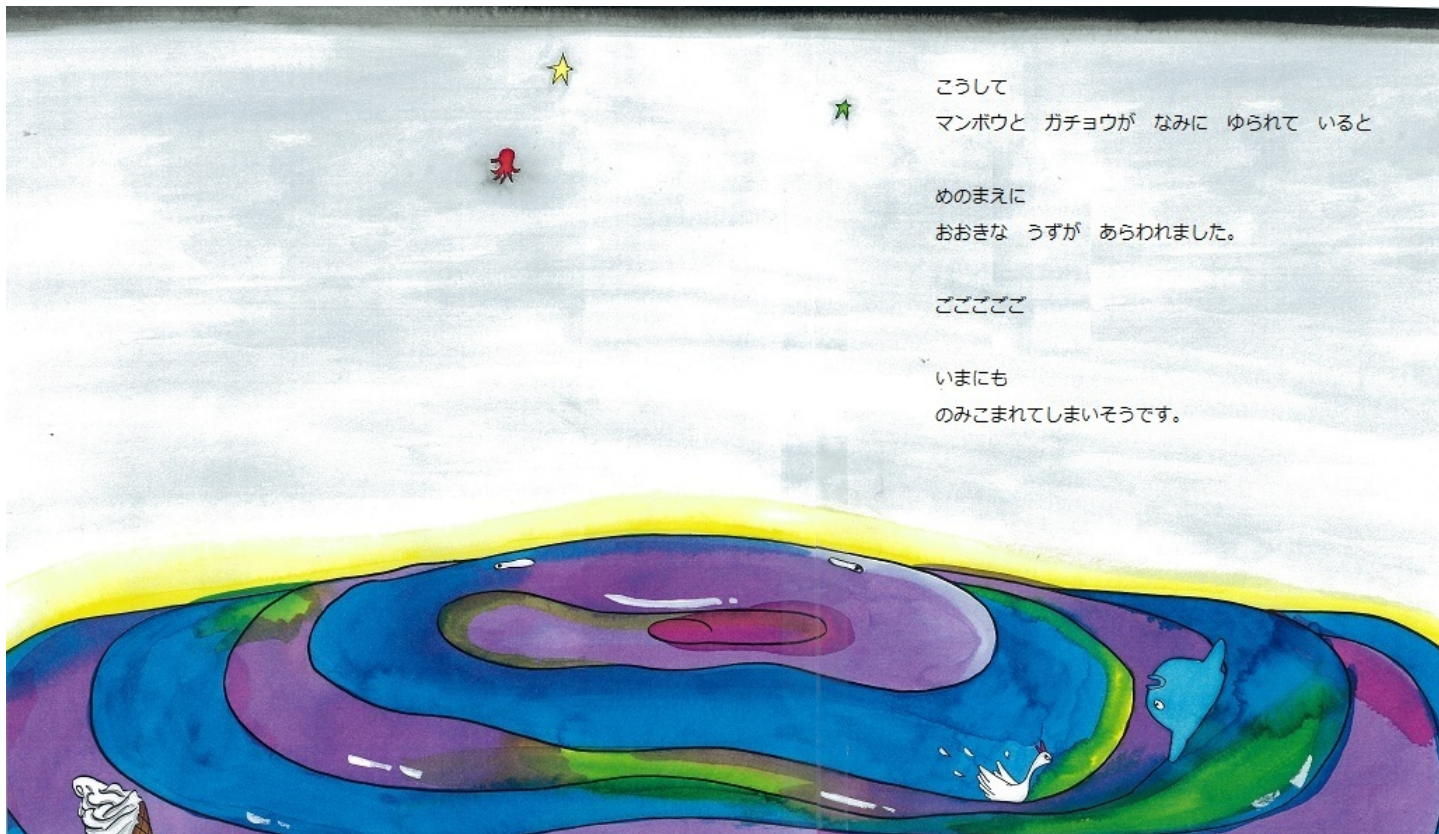
つかまえて ゆくのよ。」

と ガチョウは こたえました。

「それって すごいね。

ほくも いっしょに いっても いいかな？

せかいいち おおきな はんぺんを ほくも みてみたいんだ。」



こうして
マンボウと ガチョウが なみに ゆられて いると

めのまえに
おおきな うずが あられました。

ごごごご

いまにも
のみこまれてしまいそうです。

「やっほー」

そういつて うみから とび出したのは
おおきな かお です。

「いま わたしの ソフトクリーム たべようとしたでしょ」
おおきな かおは おこっています。

「まさか！

ぼく おなか いっぱいなんだ。

きみの ソフトクリームなんて とりやしないよ」

「あら ごめんなさい。はやとちり しちゃったわ。

せっかくだから これ たべてちょうだい」

といって、ソフトクリームを さしたすと

おおきな かおは

また うみのそこに かえっていった しまいました。





「えっ いいの？」

マンボウは おどろきましたが、
とても おいしそうな ソフトクリーム だったので
ガチョウと いっしょに たべることに しました。

うみを ただよっていると
だんだん そらが くらく なりはじめました。

「あめでも ふるの かしら」

そういつて ガチョウは かさを ひろげました。
「そうだな、あめよりも おいしいものが ふったら
いいのにな。」

マンボウは さっそく おなかを へらして いいました。

ぴちゃ



ざばざばざば

「まあ、あめかと おもったら えびが ふってきたわ。」
ガチョウが おどろいて いいました。



「よし いっちょ あじを みてみよう」
マンボウは おおきな くちを あけました。

すると、
マンボウに きづいた えびたちは
おおさわぎに なりました。

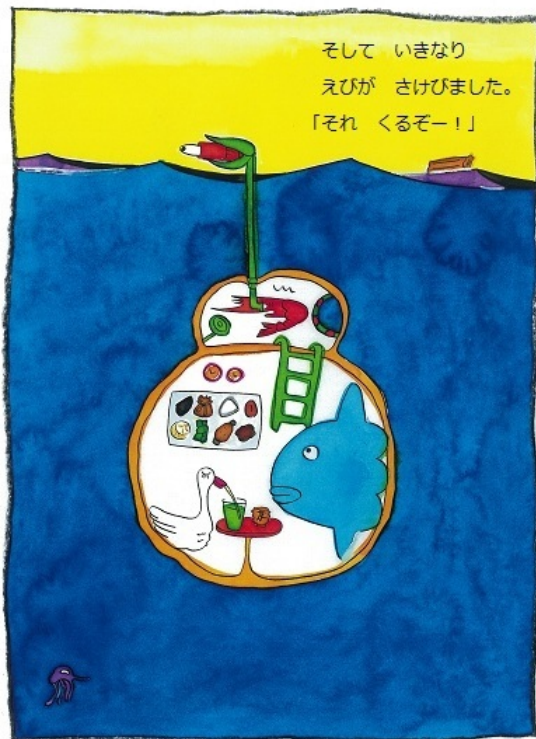
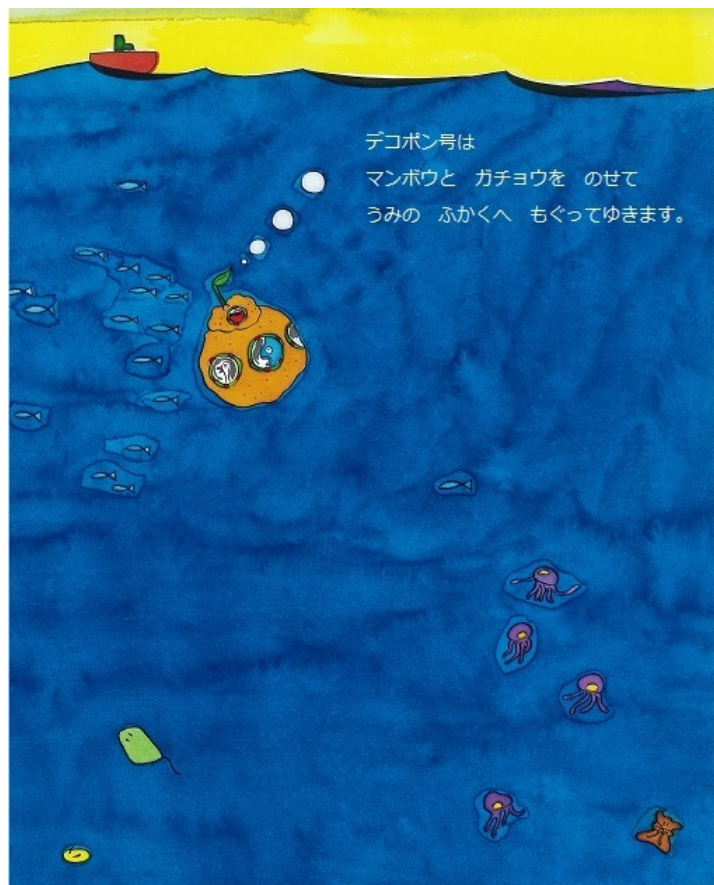
「ちょっと まってよ マンボウさん！ たべないで おくれ」
「やだね。だって ぼく はらぺこ なんだから」
まんぼうは こういいはって ききません。





すると、えびは
おおきな でこぼんを とりだし こういいました。

「それなら もっとおいしいものを
もっと たくさん たべさせてあげますよ。
さあ これにのって！」





ざっぱーん

ごはんの なみです。

「あっちから みそしるが くるぞー」
またもや えびが さけびました。



どっばーん

と

マンボウと ガチョウと えびは
うみへ なげだされて しまいました。

うみには
ほくほくの ごはんと
こうばしい おみそしるが あふれていま
す。
これで
おいしい あさごはんを いただけるね。

もうすぐ うみに あさが きます。



うっそー

<http://p.booklog.jp/book/28555>

著者：ジャイアントあきの

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/teraril41/profile>

制作年：2010年

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/28555>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/28555>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.